

平成 25 年度 第 3 回伊賀市少子化対策推進員会議事概要

会議名 : 第 3 回伊賀市少子化対策推進委員会

開催日 : 平成 26 年 2 月 19 日 (水) 13:30~15:40

開催場所 : ハイトピア伊賀 4 階多目的室

出席委員 : 嶋澤委員、福田委員、峯委員、川島委員、宮本委員、清水委員、安岡委員、
窪田委員、山尾委員、宮田委員、小丸委員、松尾委員、中島委員、中西委員
(合計 14 名)

傍聴 : 2 名

1 開会

▲司会 皆様、こんにちは。ご案内をさせていただきました定刻時間になりましたので、ただいまから平成 25 年度第 3 回伊賀市少子化対策推進委員会を開催させていただきます。

この委員会は、伊賀市情報公開条例に基づきまして、会議を公開させていただきます。審議会等会議の公開に関する要綱第 6 条に基づく議事概要作成のため録音をさせていただきたいと存じます。

本日の会議ですが、委員数 18 名のうち、14 名の委員の皆様がご出席をいただいておりますので、半数を超えておりますので会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、まず山下健康福祉部長からご挨拶を申し上げます。

山下部長 (あいさつ)

▲司会 続きまして、団体の役員の改正によりまして、新しい委員様にご就任いただいておりますので、ここでご紹介させていただきます。お手元の資料 1 の 3 ページをご覧ください。この中で、第 2 号委員で伊賀市民生児童委員連合会から松井謙二様、高瀬勝様、御両名とも本日は欠席でございますが、新たにご就任ということでご報告させていただきます。

※事務局 (資料の確認)

それでは、条例第 6 条の規定により本委員会の会議は委員長が議長となっておりますので、議事進行を中西委員長よろしく申し上げます。

2 委員長あいさつ

■議長 中西でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

今、子育ては親だけではなく、おじいさんやおばあさんなどの家族、兄弟、地域の人などが大きな支えになると思うのですが、残念ながら少子化で核家族の世帯が増え、またご両親が揃っていない世帯もあつたりします。一方で、施設でお世話になって育てているお子さんもいます。本当に多様な成長の子どもたちが大人になっていくわけなんです。

私は、母子家庭で鍵っ子だったのですが、たまに鍵をなくしたりすると隣近所の人に声をかけてもらって、面倒をみてもらっていたようなことがあり、とてもありがたかったという思いが今でもあります。私の現在住んでいる所は津市の新興住宅なのですが、お年寄りが歩いている子どもに声かけしているのを見るとほっとするものがあります。三重大大学の附属小学校が近く、歩いて通学している子どもの姿を見るとほっとします。交通量はそこまで多いわけではないのですが、道を歩いている子どもを見ると危ないかなと思ひ声をかけたりするのですが、声をかけることは悪いことではなく、声をかけないでじっと見ているよりは声をかけた方がいいと私は勝手に思っている次第です。そういう風に、地域の人が声をかけるのは昔は当たり前でしたが今は少なくなっています。私は生まれは香川県の坂出で、小学校の途中で大阪に引っ越したのですが、大阪で住んだところでは坂出に比べ声をかけてもらうことが少なかったように思ひます。ただ、大阪でも公設市場に行くとき声をかけてもらひ、なんとなくほっとしたものがあつたように思ひます。地域の人とのふれあひはありがたかったです。地域の子どもの見るだけではなく、声をかけてもらえるときありがたひかなと思ひますし、そうしていると子どもも自分より小さい子どもに声をかけてくれるのではないかなと思ひます。

3 議題

(1) ニーズ調査の結果について

※事務局 (資料2-1、2-1に基づいて、ニーズ調査の結果について説明)

■議長 説明を伺いながら、身近な人たちを拝見していると納得できる場所もありますし、反面、心痛むような数字になっていることもあります。なにか質問がありますか。

委員 調査の抽出方法について具体的にはどのようにされたのでしょうか。伊賀市といっても広く、上野地区の中心部だけでなく周辺部もあります。それらも全部均一にみなしているように思ひますが、地域差があるとすれば、一番

数の多い上野地区の傾向が強くなることとなります。そうすると周辺部の意見は埋もれてしまう可能性があります。どのように抽出し、周辺部のサンプルがどれくらいなのかお聞かせいただけますか。

また、学校の方の調査はサンプル数とかは問題ありませんが、せっかくデータがあるので、学校間において差があったのか検証できると思います。そうすることで地域の抱えている課題が浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

※事務局 就学前について、昨年の4月段階で0～5歳児は4,450人であり、実際に抽出をかけた時には4,833人でした。配布が2,500人ですのでほぼ半数の方にお送りさせていただいています。また、抽出の際に、0～5歳児のなかで兄弟のいる場合は重複しないように配慮し、それ以外は無作為に抽出しています。地域については特別なことはせず、人口配分のままでの抽出になっていると思います。

委員 就学前調査で1,415の回収があったわけですが、その回収状況として多い地区、少ない地区はあったのでしょうか。

※事務局 資料2-1の3ページ、図1-1居住地区が地区別の回収状況となっています。

■議長 「わからない」と答えた方などのなかに外国籍の方も含まれているということでしょうか。

※事務局 そのように考えています。

委員 これをみるとやはり上野地区が圧倒的に多いですね。

※事務局 上野地区は子どもの数も多いので、回答者数も多くなってきます。

委員 だから心配するのは、それ以外の地域のニーズが埋没するのではないかということですので、そういった点もご配慮いただければと思います。

(2) 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」のための区域設定について

※事務局 (資料3-1、3-2、3-3、3-4、3-5に基づいて説明)

■議長 放課後児童クラブが全ての地域に設置されているわけではないということですが、それは何か歴史的な経緯の中で、この地域はおじいちゃんおばあちゃんが面倒を見てくれるので要らないとか、そういった事情があったのでしょうか。昔は学校が終わった後も近所の子で連れ立って遊んだりしていましたが、状況は変わってきていますので、今の親や子ども自身にとっても放課後児童クラブは必要なのではないのでしょうか。地域の人目があるので要らないといったことだったのでしょうか。

※事務局 市町村合併から10年経ちますが、放課後児童クラブは基本的には小学校区に1つ、旧上野では子どもの数が多いので2つあるところもありますが、現在市全体で14か所設置されており、全ての地域で充足してはいません。まだできていない校区についても要望は多く寄せられていますが、小学校の統廃合の課題もあるため、こども家庭課としましては、小学校の統廃合後に、それとあわせて放課後児童クラブの設置も検討していくことになると考えています。ただ、それには開設者の選定をはじめとした運営面や施設面もありますので、現状では足踏み状態となっています。

■議長 集団登校でなくバラバラで帰るとなると夕方の時間では安全面で不安があります。学童保育では原則、親が迎えに来ますので、時間的に遅くなっても心配はありません。そうなる何時間まで預かるのかが問題になってきますが、学童保育の先生は主にどのような方が担ってもらっているのでしょうか。例えば学童保育の先生自体が小さなお子さんがいたりすると遅い時間まではできません。ある程度年齢のいった子育て経験のある方だと、お母さんも悩みなどを相談できるのでいいことだと思います。そういうコミュニケーションも把握されていますでしょうか。

※事務局 学童保育の指導員は、男性も女性もおり、年齢的には子育てが落ち着いている、先輩となる方が多くなっており、地域の方になっていただいています。相談については、親御さんが迎えに行った時であろうかとは思いますが、中身までは把握していません。

■議長 中身が知りたいのではなく、指導員の方々は日頃からお子さん一人ひとりをみてもらっている中で、その中で子どもについて気になることがあるのではないかと思いますし、助言とかも可能なかとも思います。ただ預かっていますよというだけではなく、ちょっとした気付いたことをメモで渡すなど、

大いに学童保育を活用していければと思います。学校の先生に言えないことも学童保育の先生には話を聞いてもらえたりするのではないのでしょうか。保護者にとってもとても良いと思います。

委員 資料3-3はうまくまとめられていると思います。市町村合併前の町単位でやっていたことの名残が形跡として見られます。旧上野市では中心部に集中しています。中心部にいくつもあって、周辺部が0というのはまずいと思います。1でいいので、周辺部にも配置すべきだと思います。上野南エリアには学童保育も施設ありません。来年度、計画を検討すると聞いていますので、ぜひ地域間格差も考慮に入れていただきたいと思います。

委員 区域設定について、幼稚園、保育園で必要ということでしょうか。意味をもう一度教えていただけますでしょうか。

※事務局 現在の利用状況と今後の利用見込みを合わせて状況をみていくことなのですが、みるための単位をどの大きさでみていくのかということになります。伊賀市全部としてしまうと過疎の所では空きができて中心部では待機が生じることになります。逆に単位を細かくしすぎるとしぼりがかかって施設を統廃合することにも影響がでてきます。ちょうど需要と供給のバランスが取れるところを考えて定員を検討していくことになります。

委員 そうなると、配置しやすいということが第一になりますよね。そういう意味ではないのですか。

■議長 幼稚園はお住まいの地域で見てもらいますが、保育所はお母さんの勤め先の近くでも預けられます。幼稚園と保育所は目的が違うものであり、幼稚園では子どものことだけを見ていけばいいことでも、保育所では子どもといっしょに親のことも見ないといけないこともあります。

委員 保護者としては利用したい施設や地域があると思います。

※事務局 伊賀市の保育所では校区は設定していません。幼稚園については公立が1つだけとなっていますので校区という考え方はありません。

委員 旧上野市では幼稚園も選べますが、それ以外の旧町村のところでは私立のある青山町を除いて幼稚園を選択することができません。住んでいるところ

の近くに幼稚園もあれば、幼稚園に預けるという選択肢も持てます。しかし区域を設定してしまうと保護者の視野も狭くなって考え方が固まってしまうので、それも考えて区域を設定していただく、できれば区域はない方がいいのではないかと思います。

■議長 幼稚園と保育所は目的が違うので、親の就労状況など条件も違ってきます。

委員 条件は伊賀市で設定できるのでしょうか。

■議長 行政が幼稚園や保育所、また認定子ども園などを整備していくわけですが、昔は子どもがたくさんいたけれど、少子化で統廃合も考えていかなければいけなくなります。ただ、幼稚園も保育所も子どもに対する教育は同じで、保育時間が長いか短いかの違いです。幼稚園に入れるか保育所に入れるかは親の勤めの状況や、近くにおじいちゃんおばあちゃんがいるかなどの条件によることになります。

委員 幼稚園と保育所がいっしょになった施設なら、保護者が選べるのでよいと思います。

※事務局 教育・保育と一緒に言ってしまいましたが、教育にあたる幼稚園は、公立が上野地区に1つ、私立が上野地区に1つ、青山地区に1つの計2つがあります。区域を設定するなら保育所の話になると思われます。アンケートでは自治協議会単位でお聞きしたので、今回は、その単位でお示したということです。

(3) 子ども・子育て支援事業計画について

※事務局 (資料4に基づいて、子ども・子育て支援事業計画について説明)

■議長 子ども・子育て支援事業計画を考えていくにあたり、伊賀市のポイントは特にありませんでしょうか。伊賀の方たちは、家庭でものを作ったりしますし、車での移動も便利ですし、お勤め先からの情報も入ってくると思います。観光客も県外から多く来ていると思います。こういう伊賀の良さをいかに知ってもらえるいい方法はないかなと考えたとき、伊賀からのお知らせがあればいいなと思いました。何らかの形で中高生も手伝って、他の地域に情報発信し、積極的に自己PRしていく、そういう経験をして子どもが育つと、地域の文化も伝承されていくのではないのでしょうか。積み重ねて次世代の子どもが何

かしていけるよう、若い人の考えることを取り上げ、一方で経験者のプロが考えることを合わせて考えていけるといいのではないのでしょうか。中学生や高校生は将来の職業などについて考える時期ですので、実験的な農業などについても興味を示すようになるかもしれません。ノーベル賞を取る人などもきっかけは身近なところにあたりします。そういったこともお考えいただければと思います。

幼児期の教育と保育の一体的な提供は、今はあって当たり前の時代になってきています。そのようななか、ここにいるみなさんは知恵があって経験のある方ばかりなので、斬新なことを色んな人から引き出してもらえたらと思います。せっかく知恵のある人たちなので引っぱり出さないともったいないのではないのでしょうか。

委員 伊賀の特産物について、中学生の授業では取り組んだりしています。自分達でいろいろ調べて、自分達が何を売りたいかを考えて、商人体験として実際にバスで大阪に行って、何人かは忍者の格好をして売ったりしています。伊賀ではいくらで売っているものを、交通費をかけて行って、それをいくらで売らないといけないのかとかを一所懸命考えていました。私はよそから嫁に来ているので知らなかったことも、そうやって体験しているのをみると、うちの子は伊賀の子だなと思います。親が知らないことでもそうやってしてくださいっています。

委員 伊賀市のキラッと光るものがあるといいと思います。

■議長 他所からきた知り合いが伊賀市で子どもに道を聞いたのですが、分からなかったその子どもは八百屋に行って聞いてくれ、それを見た知り合いはすごく感動していました。優しさはものすごく大事なことであり、地域性だと思います。

委員 子どもを育てるのは伊賀や、といわれる雰囲気であればいいなと思いますが、かつて中学校の統廃合の委員をしていた時、中学校になったら伊賀市以外の学校へ通わせるという親がいるという話を聞きました。それと逆の現象で、他所から伊賀に来てもらえるようになれば、人口の減少も止まるのではないかと考えています。

委員 子どもは何年か経ったら大きくなって次の学校へ進んでいったりするなかで、ここの部署はこの期間の子どもを見ている、例えば高校へ行ったらもう

知らないではなく、一貫した流れが子育ての大きなものになると思います。私は地域のなかで子どもが育てられると確信していますので、小学校の統廃合は、複式学級が解消されるなどの利点も理解できますが、安全性のみが優先されスクールバスで通うとなると地域とのつながりが持てなくなると思います。また、とぼとぼ歩きながら景色を見たり花が咲いているのを感じたりして感性を磨くこともできなくなってしまいます。

また、統廃合となると学童保育の役割も複雑になると思います。スクールバスの時間が終わった後、学童保育で残った子はどのようにしていくのかなど、横のつながりも十分に持っていていただきながら、一貫性を持って考えていただきたいと思います。

商工会議所に勤めている関係で、お父さん、お母さんの働く場所、企業が理解していただかないと、能力のあるお母さんが社会的に力を発揮していくのは難しくなる。それらをどのようにつなげていくのが大事だと強く感じます。

4 その他

※事務局 (資料5に基づいて、今後のスケジュールについて説明)

※山下部長 (あいさつ)

■議長

先日、電車で大阪方面に向かっていた時、中学生の子どもが乗っていたのですが、話からすると伊賀の子どもたちのようでした。今の子どもたちは行動範囲が広いんですね。中学生が大阪？と思いますが、私からするとそのように行動範囲広く行動し、住んでいるところでは得られない文化を新しくつかもうとすることは健全な感じがします。ただし、そのような行動をする前にしつけておかないといけないことがあるのですが、それが家庭でできていない、そのことがとても心配です。そのようなことを啓発する冊子を作る際には、柔らかく理解しやすいようにしていただきたいです。文科省の作る堅いものでは頭に入りません。一つのアイデアとしては、こういうことを伝えたいのだけどどうすれば浸透するのかを高校生自身に聞いて、高校生自身に考えてもらってはどうかと思います。大人は周りから見守りながら、子どもが子どもに注意するようなものができればいいのではないのでしょうか。同じ世代が考えたことをまとめていって、さらには伊賀の子どもたちが作った子ども条例のようなものになっていけば、意外と読んでくれるのではないのでしょうか。ワルの子もいますが、その子らなりに真剣に考えてくれると思いますし、子どもたちから引き出すことが大事ではないのでしょうか。子どもが作

る子ども条例、大人は見守る。作るのはしんどいかもかもしれませんが、そういう冊子にしてもらおうと浸透していくのではないのでしょうか。

委員 先生の見解には反対です。子どもの意見を聞くことは賛成ですが、子どもはまだまだ人格が未完成なものであり、暴走するので、社会が方向付けをしないとどこに向かっていくのか分かりません。子どもに対しては指導が必要です。子どもに任せ、間違っただ方にどんどんいってしまうととんでもないことになってしまいます。

■議長 子ども同士で色々な考えを聞いてもらえる場、話し合える場があるといいのではないのでしょうか。高校生が中学生の話聞き、中学生が小学生の話聞きなど、世代の近いところで話を聞く事により、共鳴できると思います。そういう年齢を超えて遊ぶ仲間づくりのため、何らかの形で接点があるといいように思います。

※事務局 保育の場などでは世代間交流に取り組んでいます。

■議長 お利口さんばかり集まるのではない方がいいと思います。

※山下部長 子どもの声は大事であり、反映させるような場づくりは重要だと思います。

※事務局 他に気になる点がありましたら、21日(金)までに事務局まで連絡下さい。

■議長 子育て支援の場として、親が集まる場はあるのでしょうか。

※事務局 子育て支援センターが、ハイトピア伊賀や、各旧町村単位であります。

■議長 昔はお風呂屋さんなどでしゃべったりすることが、情報交換の場となっていました。そのような井戸端会議的な場があるといいと思います。

委員 地域のお年寄りが出向いてきてくれて、読み聞かせや、昔の遊びを教えてくださいたりしています。とてもありがたいです。

5 閉会

■議長 他になければこれで終わらせていただきます。

▲司会 長時間にわたりご議論をいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。